

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム 緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-11		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4392800050&SCD=320&PCD=43
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人総合健康推進財団		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「仁徳」という理念を基本とし利用者の主体性を大切に体調や気分を把握しながら不快のないような支援を心がけている。一緒に出来ること、または一人で出来ることへの支援を実施するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は「仁徳」(利用者を慈しみ、利用者の思いを感じる)という理念のもと、質の高い介護が実践されている事業所です。それは、介護事業所として目標であるが実践することが難しい、「利用者」と職員が同じテーブルで同じ食事を頂く「家族・本人の希望に沿ったきめ細やかな受診支援」「排泄・入浴への優しい誘導」などが実践されていることから伺えます。また、事故対応、身体拘束などのマニュアルが、各職員独自で作成されその振り返りを重ねることで、マニュアルを浸透させる取り組みも充実しています。このような介護や取り組みが、利用者の安心・家族の安心と繋がっていることは、事業所の行事の参加者の多さ、その後のアンケートの多さにも伺えます。今後、介護の質の高さを維持し更に向上するために、職員の職場環境のより一層の向上を期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議などで「仁徳」に基づいて行動することがあるべき方向性ではないだろうかと振り返るようにしている。日頃、理念を見ては考えたりしている。	職員が作りあげた理念を日々の介護のなかで、何度も振り返ることで、理念の共有がなされている。それが、利用者本位の穏やかなケアの実践に繋がっている。	理念に沿った質の高い介護が実践されていることを、事業所全体で改めて確認するために、より丁寧な内部評価を実施されることを、期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外出先で顔見知りになっていたり地域の行事に参加させていただいている。また、ホームに寄ってくださることも増えてきた。	設立当時に比べ区長との繋がりが深まり、どんどや・老人会など地区の行事に参加するようになってきている。今年のどんどやの折には車椅子の利用者に対する地域の方からの配慮がなされるなど、より地区の方と触れ合う機会が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとしての参加はしているが、ホームが主催となつての貢献は出来ていないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し意見を聞いている。	入居者それぞれの状況が詳しく報告されている。事業所の特性を活かした認知症の人の生活支援、高齢者の尊厳保持などの情報発信の場としても活用されている。	参加者に評価結果を伝え、現在の介護の質の維持及び一層の向上につなげるモニター役になっていただく取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加されており情報交換出来ていると思う。	月に1度開催され行政関係者も参加される福祉関係の集いにおいて情報交換ができています。担当者とは、日頃から相談しやすい関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践出来ている。 マニュアル見直し実施。 施錠より見守りし制限しないようにしている。	身体拘束担当の職員が独自のマニュアルを作成している。そのマニュアルを基に会議で職員全員による身体拘束をしないケアを振り返りが行われている。外出しそうな利用者には何気ない見守りと、優しい声かけで、敷地外に出ない誘導をする取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	実践出来ている。 マニュアル見直し実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が研修報告しているが参加できる機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施出来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリング時や面会時に意見を求めている。 行事後はアンケート実施している。	行事後のアンケートには率直な多くの意見がよせられている。それを、今後の行事の運営方法に活かそうとする取り組みがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議に参加し聞く機会を設けている。	管理者と職員は日頃から意見を出し合える関係が築けている。隔月に代表者も参加する月の1度の職員全員参加の会議でだされた意見は運営に反映される機会が多い。また、代表者は職員の待遇に関するアンケートを実施する取り組みを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の担当を決めその経過をみている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた人員での状況にて外部への研修参加は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会議や病院での担当者会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より担当職員を決め、環境に慣れていかれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りやコミュニケーションの中で気づくように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経過とともに身体機能と理解の観察をしながらケアの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自主的に手伝ってくださることや、こちらからお願ひして出来る事が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に出来ない事は私たちが私たちに出来ないことは家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出掛けることは実施している。 家族との外出 自宅への外泊支援。 自宅や家族のことを気にかけておられることが多いように思われる。	家に帰りたい利用者にはその気持ちに沿って、こまめな外出支援が実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には言い合いをされたりされるが心配したり、気をつけたりしながら過ごされている。 ケースバイケースにて間にはいり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居されても状況に応じて連絡とらせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施しても上手くいかずに結果、本人が嫌がられることを避け拒否や不快にならない方法を探して支援するようにしている。	職員の常識や思いより、本人の不安・不快を減らすことを優先し落ち着いた生活ができるための取り組みが多くなされている。例えば、夜間無理に起し排泄を促すのではなく、おむつを厚くし本人が安心して眠れる環境づくりをする工夫が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や家族からの聞き取りにて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調を重要視し無理のない一日となるよう支援している。出来ることは促しているが無理強いはいないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだ十分ではないがチームで実施できるようにと努めている。	以前はケアマネージャーがモニタリングをしていたが、現在、利用者個々の担当職員が本人・家族にモニタリングしているので、家族本人の意向がより反映した介護計画が作られるようになってきている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	注意すべき点や変化時の記入は多いが暮らしぶりの記入が不十分である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じて出来る事はしていると思うが柔軟な支援とはどういったものをしているのかわからない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が不十分なのかも知れないと感じることが多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と同様のかかりつけ医としているが疾患によっては主治医の変更があったりする。家族での受診や家族の希望にてホームでの受診支援行なっている。	熊本市内の病院へも月に1度の通院支援が行われ、家族の負担を減らし、利用者の状況を的確に医師に伝える取り組みがなされている。このような利用者・家族の希望に沿った受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時は主治医や訪問看護のアドバイスを受けながら、変化時の対応は原則すぐに受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会や会議参加にて情報をもらいながら経過を見守っている。関係は良いと思われる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護計画作成時や面会時に予想される状況など提供しながら、今後の意向やホームで出来ること出来ないことの説明を行なっている。	本人が重度化した場合は、段階的に医師看護師を含めて家族に対して説明が行われ、家族・本人の意向の沿うような支援が実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練はしていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回実施している。	火災訓練が冬は夜間、春は日中、近くに住む利用者の家族・親戚、区長、近所の方の協力を得て実施されている。緊急時連絡表は関係機関にどのように情報を伝えるかが書き込まれて、適切な対応ができる工夫がされている。今後、水害・地震などの対策を検討しようとしている。	火災以外の災害時の避難対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いになってしまいがちであるが言葉と接遇に関しては会議でも定期的に意識するよう話題にしている。	利用者と馴れ合いの関係に陥らないことを確認しながら、利用者と職員間に節度ある関係を維持し、利用者の人格を尊重した介護をする取り組みがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は促しているが一方的になってしまっていることもある。我慢するよりありのままにいていただきたいという思いはあるのだが時間や業務に追われている時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決め事はないが皆さんの希望に添っているとは言い難いが希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施出来ていると思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施出来ていると思う。	利用者の意見を取り入れながら献立が作られ、職員と利用者が一緒に準備・食事・片付けをしている。利用者の咀嚼能力に合わせ刻む・とろみなどの工夫がなされている。職員と一緒にの食事は利用者の楽しみとなっている。	利用者がより楽しく食事の準備・片付けに取り組めるように台所の暖房の設置を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないのでカロリー管理まではできていないが摂取量・水分量・食形態は観察工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施出来ていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施出来ていると思う。	利用者個々の日常生活のパターンの把握につとめ、何気ない排泄への誘導をすることで、日中おむつをしている利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んではいるが歩行が出来ない状態となってくると工夫しても効果なく緩下剤に頼らなければならないことが多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は実施出来ていないが隔日入浴実施している。強引さはなくタイミングをはかって実施している。	冬は原則に日中であるが、温かい時期は本人の意向に沿った入浴支援がおこなわれている。入浴嫌いな利用者には、入浴を強要するのではなく入浴に促す雰囲気づくりをする取り組みがなされている。	利用者がより入浴を楽しむために、浴室の手すりの補充と脱衣所の暖房の設置を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施出来ていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてのことを把握できている職員は少ないが処方箋は見えるように綴じており把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者皆さんとは言えないが実施出来ていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人との協力とまではできていないが家族やホームで対応し外出している。	買い物好きの利用者に、近所のお店への本人たちの希望に沿った頻繁な外出支援が行われている。その際、経済的負担にならないように、一個だけの買物になるような声かけをしたり、リハビリをかね小銭をつかうよう誘導する取り組みもなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方は買い物時は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境的には外へ視線を向ければ季節感を感じられるのではないかと思われる。障害物となるような物は置かないように気をつけている。	居間は明るく利用者が動きやすいすっきりとした空間となっている。居間・廊下にはタイプの違う椅子がいくつか配置され利用者の寛ぎやすい工夫がなされている。利用者の目線に合わせ壁に教育勸語が貼られている。	居間と居室を繋ぐ廊下は職員の目の届きにくい空間となっています。台所側に小窓を設置するなど、職員が利用者を見守りやすくなる取り組みを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中ではあるがおもいおもいに集まり過ごされていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分ではないかも知れないが実施出来ていると思う。	日々の暮らしのなかで、本人がより落ち着いて居心地良く過ごすために必要と思われるものを、例えばソファ・タンスなどを、本人・家族と相談しながら設置していく取り組みがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが工夫している。		